



2020年(令和2年)12月号

中野区立江原小学校 学校便り

校長 根来 郁明 児童数511名

学校教育目標自立し、共に生き、平和を求める子
『かしこく』『やさしく』『たくましく』**「学力の向上」を目指して****校長 根来 郁明****1. 「わかる授業」「意欲を引き出す授業」を増やす**

学校は、学力を高めることが一番の使命だと考えています。日々「わかる授業」を心がけ、子どもたちに「わかった」、「できた」という達成感や充実感を味わわせることが大切です。

江原小学校では、子どもたちの学力を高めるために、日々「楽しくわかる授業」を心がけ、子どもたちに「わかった」、「できた」という達成感や充実感を味わわせることを目指しています。そのため、子どもたち一人ひとりの学力が少しでも高まるように、教師一人ひとりが、授業の質を高める努力をしています。日々の教材研究や授業準備はもちろん、校内外の研修会に積極的に参加する等、自己研さんに励んでいます。

しかし、教師が学力向上に一生懸命になるあまり、「勉強嫌い」「学校嫌い」になっては困ります。「早く勉強したい」「やってみたい」等、子どもたちの「学ぶ意欲を引き出す授業」をするためには、教師自身が楽しんで勉強していることが大切です。教師が楽しみながら勉強(教材研究、授業準備…等)し、自ら勉強したことを楽しく子どもたちに教える。そうすれば、楽しい授業になり、子どもたちはきっと勉強が好きになり、自ら進んで勉強をするようになる…と信じています。

2. 「わかろうとする」授業

教師は、教えることが仕事です。子どもたちの「わからない」に対して、丁寧にわかりやすく教えようとします。わかりやすい説明を聞き、わかりやすい板書(黒板の文字)を見ていると、授業の内容がよくわかります。

ところが、「わかりやすく教える」ことに意識が行き過ぎると、自分で考えて「わかる授業」ではなく、教師から教わって「わかる授業」になっていることがあります。「わかりましたか？」の問いかけに、元気よく「はい」という返事が返ってきますが、わかった気がしているだけで、本当は理解していないことがあります。

子どもたちが「わからない」と感じた時こそ、自ら考えさせる(自らわかろうとする)ことが必要になります。これからの時代を生きていく子どもたちには、「わからない」に対する答えを自ら考えさせる、「わかろうとする授業」を増やしていくことが必要だと考えています。

先週、『中野区 学力にかかわる調査』の結果をお知らせいたしました。学力は、他者(国、区、校内、クラス…)との競争ではありません。今日の自分が昨日の自分より少しでも「わかる」「できる」ようになったことを実感し、昨日よりも今日、今日よりも明日…と、日々、自分自身を更新(アップデート)していくために活用していきたいと思えます。